



### 本号の内容

#### □ 冬に語る

・ボクの松戸の七不思議

#### □ 事業報告

・共創プラットフォーム事業化研究会(フェーズⅡ)スタート  
・CNCP「マッチングサイト事業」起ちあげ報告

#### □ 活動報告

・第21回CSNサロン報告 キャリアを考える

#### □ トピックス

・奥村組 技術セミナーレポート

#### □ CSNのうごき

## □ 冬に語る □

### 健康寿命延伸策:好奇心を持ってわくわく体験をする

# ボクの松戸の七不思議

事務局長 高橋 肇

新年おめでとうございます。

みなさまには事業運営にいつもご協力いただき、ありがとうございます。

今年もよろしくお祈りいたします。

会員各位が心身ともの健康に留意され、いつまでも現役として活躍されることを事務局長としてここから祈っていますが、長生きもさることながら、ことしはとくに「健康寿命」に留意されるようお願いしたいと思っております。

2012年のオープンセミナーでご講演いただいた島村先生（島村トータル・ケア・クリニック院長）に先日お聞きした話であるが、平均寿命と健康寿命の動向に大きな問題があるという。

#### 健康寿命と不健康期間

	年	平均寿命 (歳)	健康寿命 (歳)	不健康期間 (年)
男性	1974	71.2	67.8	3.4
	2014	80.5	71.2	9.3
女性	1974	76.3	72.4	3.9
	2014	86.8	74.2	12.6

表から、1974年から2014年までの40年間で、平均寿命は10歳前後（男9.3歳、女10.5歳）延びたが、健康寿命は3歳前後（男3.4歳、女1.8歳）しか延びていないことがわかる。

健康寿命とは「自立した生活ができる期間」をいう。平均寿命から健康寿命を引いた残りが不健康期間となる。

不健康期間つまり「ひとの世話になる期間」が、

40年前は4年間に満たなかったのに、いまは9.3～12.6年間もあるのだ。

平均寿命が延びたといって喜んではいられない、逆に自立できない期間が増えているのである。

島村先生は、超高齢社会において、先行きが不安でなんとなくつらい理由は、平均寿命と健康寿命のあいだに存在するこの不健康期間の長さによる。健康寿命を延ばし、健康長寿者が増加することがそれを救う、といわれた。

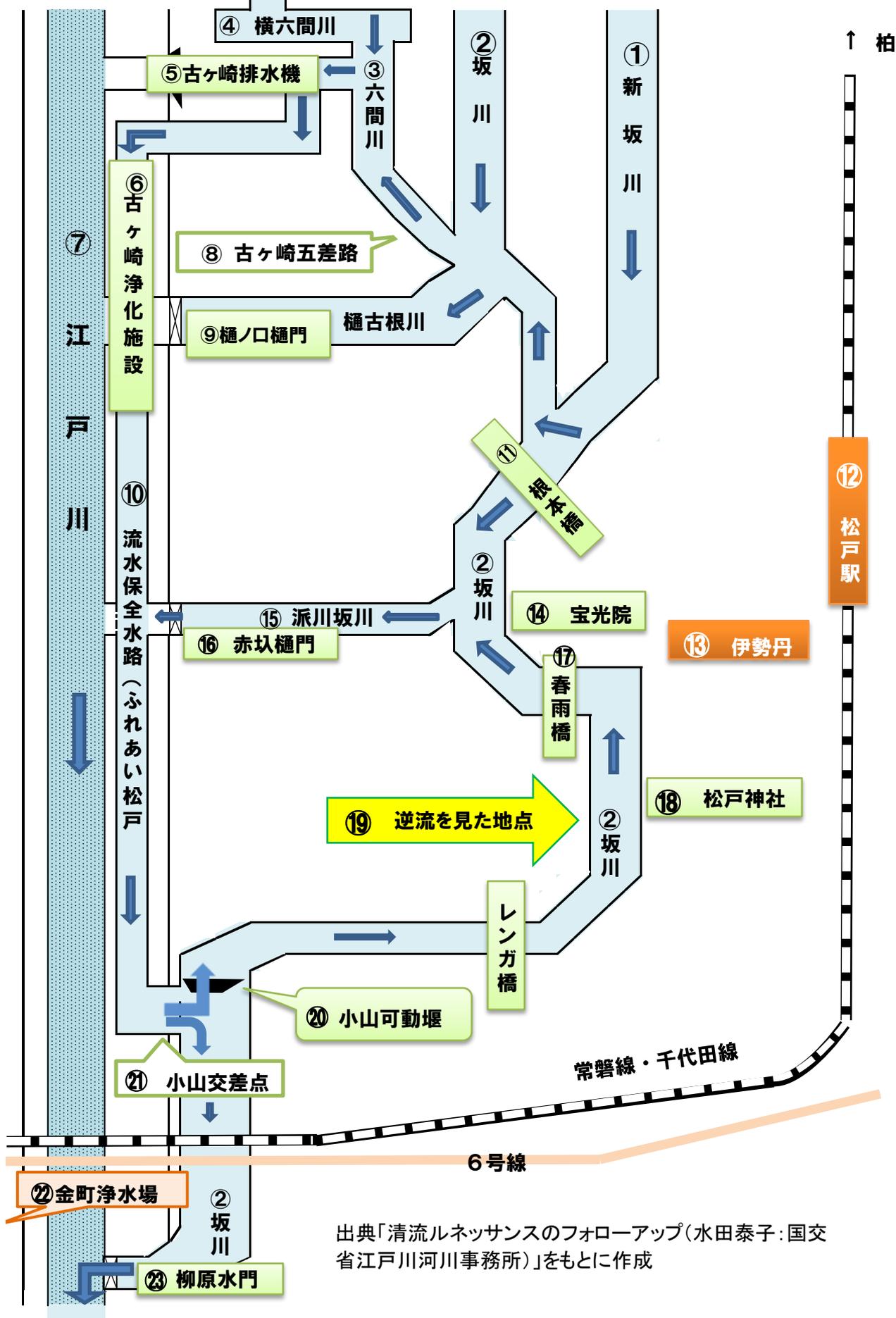
わたしも、健康寿命を上まわる年齢になったので、健康長寿者をめざして何かやってみようと考えた。島村先生が提唱する「健康五つの秘訣」に、“好奇心を持つ、わくわく体験をする”という一条がある。

そこで、日常生活のなかで「？」と感じたものを数項目ピックアップして「松戸七不思議」と名づけ、その謎を追求してわが脳に喝を入れ、健康寿命の延伸をはかることとした。

わくわく体験の事例報告かたがた、七不思議のうち「その1」をご紹介します。

はなしの内容が分かりにくいので、本文をお読みいただくときに、この図を参照してください。

### 坂川河川網の水の流れ



出典「清流ルネッサンスのフォローアップ(水田泰子: 国交省江戸川河川事務所)」をもとに作成

## ボクの松戸の七不思議その1. 下流から上流へ流れる川の秘密

上野から常磐線で金町をすぎて江戸川を渡ると、線路は正面の下総台地の西端を避けるように左にカーブしながら坂川（江戸川支川）をこえ、左手の江戸川にほぼ平行して松戸駅に向かう。

松戸市街地は、この江戸川左岸と台地にはさまれた海拔4m前後の低地に広がっている。

坂川は、台地の水を集めながら、江戸川に沿うように市街地を流れ、常磐線橋梁の約4km下流で本川に合流している。

昨夏、この坂川沿道で催された「献灯まつり」という地元の祭りにいったときのことである。

この日、⑫松戸駅から⑬伊勢丹を通過して⑭春雨橋を渡り⑮坂川へ出た。何段も飾られた提灯が、川面に映えている。⑯松戸神社の方へすすむにつれ、薄暮れのなかに箱あんどの列が浮かびあがってくる。“松戸にこんな風雅なところがあったのか”と感じ入って歩いていると、ふと違和感を覚えた。

「なにか、おかしい……」「左眼に映る風景がなにか変だ」とわが頭のセンサーが伝えてくる。

首をめぐらすと……「あっ、坂川が逆に流れている！」

いま、右手に⑦江戸川、左手に②坂川をみて歩いている。ということは、下流にむかっているのだが、坂川の流れはどうみても上流にむかっている。しかも、さざ波だっているので、水勢があっけかり速いようにみえた。

⑱ 逆流を見た地点



このあたりは高低差がほとんどないため、江戸時代には坂川は「逆川」とよばれるほど水はけに苦しめられたことはよく知られている。これと関係があるのだろうか。

それにしても、平行している川の一方が逆に流れるわけがわからない。じつに不思議だ。

松戸市街地は、低地のせいかわかると江戸川のほかに川が意外と多い。

江戸川河川工事事務所のホームページをみると、『それらの川が合流したり分かれたり、途中で川の流れの方向が変わったりと複雑な網目のような流れ方をしているので、清流ルネッサンスでは「坂川河川網（坂川、富士川、新坂川、六間川、横六間川、樋古根川、派川坂川）」とよんでいる』とあった。

どうやら、謎をとく鍵は、清流ルネッサンスにあるらしい。

かって、①坂川では汚染された生活排水が直接

流され、また水質事故も何度かあり、坂川が流入する⑦江戸川で取水する浄水場三か所（⑫金町東京都民250万人、古ヶ崎・栗山：千葉県民50万人）に深刻な水質汚濁問題をおこした。

その対策として平成7年（1994年）に策定されたのが、「清流ルネッサンス江戸川・坂川」という水環境改善緊急行動計画である。

このプロジェクトは、導水路・流域下水道・流水保全水路・河川浄化施設の整備などをおこなう大規模なもので、総事業費は調べきれなかったが、流量確保のため利根川から水を引く北千葉導水路事業だけでも3000億円といわれている。

なかでも、「流水保全水路の整備・河川浄化施設の整備」が関係ありそうなので、ここに的をしばってみた。

両施設の概要を調べてみよう。江戸川堤防にある説明板がわかりやすく書いてあるので、以下引用する。

### 河川浄化施設について

古ヶ崎浄化施設は、坂川から江戸川に流れ込む高水敷の下で、曝気付礫間接触酸化法とよばれる方法で浄化し、江戸川の水質改善をはかり、施設下流における上水道取水口でのカビ臭やカルキ臭などの問題を軽くすることを目的として建設されました。

この浄化施設により水は大変きれいになり、夏の水道水のカビ臭も消え、良質な水源を確保できるようになりました。現在は、浄化された水をふれあい松戸川に流下させており、ふれあい松戸川の豊かな自然環境の創出にも貢献しています。



### 流水保全水路（ふれあい松戸川）について

ふれあい松戸川（流水保全水路）は、東京都や千葉県の水源地（④金町、栗山、ちば野菊の里の三浄水場）となっている江戸川の水を安全で良好な水質にするため、汚れのひどい坂川の水を江戸川下流にバイパス（迂回）する水路で、市民公募で命名されました。

ふれあい松戸川（流水保全水路）は、古ヶ崎から小山までの新たに設けられた左岸河川敷に作られ、延長 2.5 km で、平成 10 年度に完成し現在運用されています。



どうもこのシステムは複雑で、読んだ限りではその仕組みがよく理解できない。

要するに、汚れた①坂川や②新坂川の水をすぐ⑦江戸川に流さないで、いったん⑥浄化施設に集めて、江戸川の河原に新設した⑩水路（バイパス）で下流に流し、また②坂川に戻して、②浄水場より下流で⑦江戸川に流入させる、というものであるらしい。

- では、松戸市街の上流に位置する⑤古ヶ崎に水はどうして集まるのか？
- ②小山から②坂川に戻すとなると（その水は下流にながれるはずだから）、⑩松戸神社横でみた上流へむかう流れはどこから来るのか？
- それが、⑩小山から逆流して来ているとすると、小山から下流へいく水はどうなって入るのか？

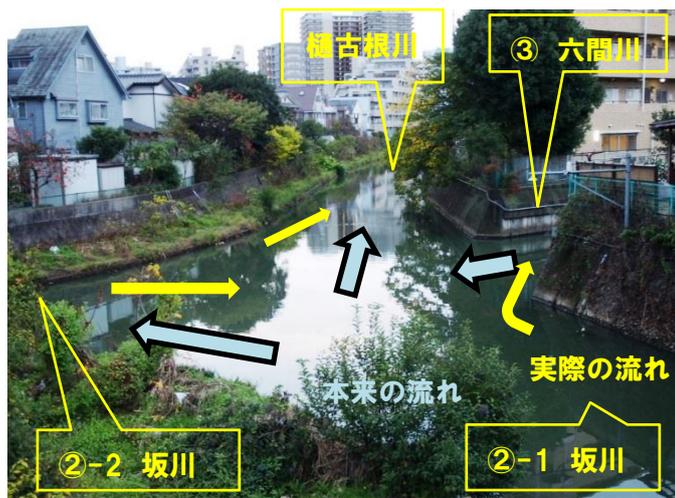
疑問は深まるばかりだ。そこで、現地を歩いてみることにした。



①新坂川と②坂川の合流点である。右手の新坂川、正面の坂川からの水は合流してから橋の下を流れて下流の⑩松戸神社方向へいくはずである。ところが、新坂川の水は、右にまがって坂川に流れていき、はやくも常識とちがう動きがみられる。

②坂川を遡上する水は③六軒川を通して⑥浄化施設に達するのである。

## ⑧ 古ヶ崎五差路付近(川の十字路)



②坂川と③六軒川がクロスする。ここは隣接する道路が⑧五差路で、川が十字路である。川が平面で交差するという形は、かなり珍しい。

このクロス点での水流方向は、本来は  
②-1 坂川と③六間川 → ②-2 坂川と樋古根川  
実際は、  
②-1 坂川と②-2 坂川 → ③六間川と樋古根川  
となっていて、ややっこしい。

## ⑤古ヶ崎排水機場



③六軒川の下流からきた水と、上流の④横六間川からきた水が、一緒に左側の取水口に入っていくように見える。

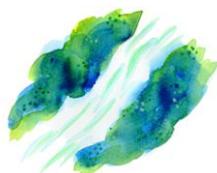
一本の川のなかで上下流が相対しているような不思議さである。

ここから、⑥古ヶ崎浄化施設に送水される。

## ⑥ 古ヶ崎浄化施設(地上部分)



一見流れに逆らって集められたように見える坂川河川網の水は、一まとめにされて⑥古ヶ崎浄化施設に入る。江戸川河川敷の地下に設置された浄化施設から⑩流水保全水路(ふれあい松戸川)を経て、25 km下流の小山で坂川に戻される。



## ⑭ 宝光院



ここで②坂川が⑮派川坂川(右手)に分流する。宝光院の二股になった分流点をながめて、「やった、ここだ、これだ!」とガッツポーズをとってしまった。下流の⑩松戸神社方向からの流れが、かなり激しい動きで⑮派川坂川に流れ込んでいるではないか。「たしかに、逆流している」、なんだかワクワクしてきたぞ、「なぜだ、どうしてだ!?!」。事前の知識では、派川坂川に流れはないはずであったが、現実には赤坂樋門にのみこまれていく。

## ⑩ 赤塚樋門



ここは、⑨樋ノ口とならんで坂川の江戸川への出口となっていたが、いまは閉められている。

## ⑩ 流水保全水路(ふれあい松戸川)と⑦江戸川



⑮派川坂川を 100m ほどいくと⑩赤塚樋門に達する。

⑩樋門から外に出てみると、そこは⑩流水保全水路(ふれあい松戸川)だった。

樋門から⑦江戸川への流出水路は、松戸川と交差する。混じりあわないように、江戸川側と樋門側にゴム製の可動堤があって区分されている。その樋門側の堤が低くなっていて、⑮派川坂川からの水が越流して松戸川に流れ込んでいるのではないかと。

合点！ 松戸市街での②坂川は、上から下へ流れているのではなく、循環している。

⑭宝光院→⑩赤塚→⑰小山→⑱松戸神社→⑭宝光院と巡っているのだ。レジャーランドで見かける流れるプールと思えばよい。

残る謎は、強い水勢と⑰小山での上・下流の分流方法である。

いそいで、⑰春雨橋をへて、⑰小山可動堰へむかう。

## ⑩ 流水保全水路(ふれあい松戸川)



2.5 km 上流の⑥古ヶ崎浄化施設からの坂川の水は、江戸川左岸の河川敷に新設されたこの水路を通過して小山へ送られる。

河川敷は、もともと右岸(金町側)にしかなかったので、右岸を削って左岸(松戸側)に造成したそうである(つまり、河川敷を右岸から左岸へ移した)。

また、保全水路は計画では地下管路のところ、「水にお天道様の光をあてないでどうする！」との住民の声で、オープン水路に変更された。

いまでは、野鳥が集まりよい景観が保たれている。

## ⑰ 小山可動堰と②坂川



⑩流水保全水路(ふれあい松戸川)の水が坂川に戻される場所に着いた。最下流に来てやっと謎が解けそうだ。

ふれあい松戸川からの水は、江戸川堤防と⑰小山交差点を暗渠でくぐって、下に流れる②坂川にT字の形で合流するようになっていた。

⑰小山可動堰は、吐出口の下のわずかに上流部に流れを締め切る形で設置されている。可動堰の水位は、下流側が高く設定されているので、越流水が上流側(⑱松戸神社側)にも流れるようになっている。水は、この一種の分水嶺のような簡単な仕組みで上下流に分配されているわけだ。

## 謎の正体みたり“小山可動堰”



坂川逆流の元がこれである。

正面の⑳小山交差点の下から吐出する⑩流水保全水路(ふれあい松戸川)の水が、本来はここから下流にむかうところ、可動堰により一部が上流側にも戻されている。

理由は、坂川の⑱松戸神社付近の流量を増やすことと、①新坂川からの水が⑤古ヶ崎に行かないで⑮派川坂川に流れこんで水質悪化させている

ため、ここから⑱松戸神社を経て③六間川に逆流させ、再び⑥古ヶ崎の浄化施設に入れるようにしている、とのことである。(出典：まちづくりNPOセレガ「わがまちブック松戸3」)

⑱松戸神社付近で水勢が強い理由は、小山でポンプアップされているかもしれないが、よくわからなかった。

また、予想とちがって、⑮派川坂川と⑯赤塚樋門が使われていたが、なにか理由あつての措置と思われるが、その理由もわからなかった。

安心安全な環境を取り戻そうとはじめられた、この「清流ルネッサンス江戸川・坂川」というビッグプロジェクトは、計画目標年の平成22年(2010年)に、水環境目標をほとんど達成して終わったというから素晴らしい。

あのお祭りの夜、ちらっと目に映った「逆に流れる坂川」は、こんな壮大なプロジェクトとロマンを背景にしていたのである。

さて、ボクの松戸の七不思議、

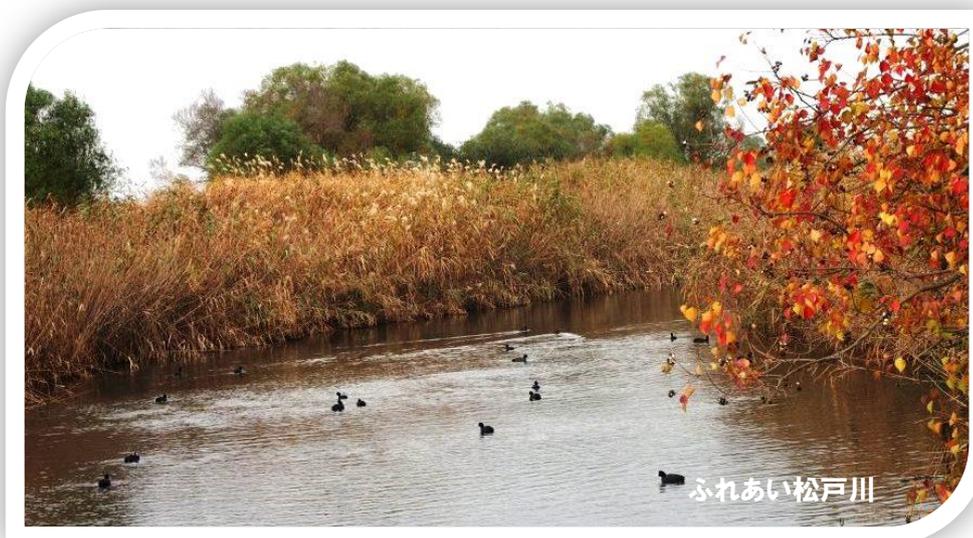
その2：「松戸まで4km、信号がひとつしかない一本道の謎」

その3：「渡っても渡っても現れる新京成踏切の怪」

とつづくのだが、いつか機会があればご紹介したい。

好奇心は満たされたが、はたしてどこまで健康寿命を延ばしてくれるのだろうか・・・

以上



□ 事業報告 □

## インフラ維持・更新市場での革新的ビジネスモデル構築をめざして 共創プラットフォーム事業化研究会(フェーズII)がスタート

「共創プラットフォーム事業化研究会」は、2014年10月NPO法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)をプラットフォームとして立ちあげられた研究会である(2015年季刊誌秋号(Vol11)で報告済み)。

建設産業では初の、NPOをプラットフォームとした新規事業の創設をめざすものであり、担当責任者は、本研究会を提案したわがCSN(CNCP会員)があたっている。

本研究会のフェーズIが昨年7月に終了したため、フェーズIIの進め方について10月に参加企業4社(安藤ハザマ、奥村組、熊谷組、西松建設)との間で話し合いが持たれた。

その結果、フェーズIIは「事業化のコツおよび手法を学ぶためにインフラ維持・更新市場における革新的ビジネスモデルによる具体的な事業計画書の作成を試みる」を取り組みの目標として活動をするようになった。

取り組み手順は下記の通りである。

- (1) 共有価値の創造(CSV<sup>1</sup>)の学習  
注1: 建設産業としてのCSV(Creating Shared Value:共有価値の創造)としての取り組み
- (2) インフラ維持・更新における社会的課題の検討
- (3) セオリーオブチェンジ<sup>2</sup>の学習  
注2: 社会的課題の事業化のアプローチ方法のひとつ。考え方そのものを変えていく。
- (4) 革新的なビジネスモデルを検討

- (5) ビジネスモデルに関わる関連知財の調査
- (6) ビジネスモデルに基づいた具体的な事業計画書の作成

- (6) 必要に応じて外部から有識者を招聘する。
- (7) 活動期間: 2016年7月まで。

また、研究会は下記の通りに進めることになった。

- (1) 研究活動は参加企業の能動的な活動で進める。
- (2) 研究会座長は辻田とする。
- (3) 定例研究会: 毎月第2水曜日 15時~17時
- (4) 研究会会場は参加企業持ち回りとする。
- (5) 全般の研究指導は露木先生にお願いする。



### 研究会のスケジュール

活動内容	フェーズII									
	第1回 (10月)	第2回 (11月)	第3回 (12月)	第4回 (1月)	第5回 (2月)	第6回 (3月)	第7回 (4月)	第8回 (5月)	第9回 (6月)	第10回 (7月)
(14) 共有価値の創造(CSV)の学習										
(15) インフラ維持・更新における社会的課題の検討										
(16) セオリーオブチェンジの学習										
(17) 革新的なビジネスモデルの検討										
(18) ビジネスモデルに関する関連知財調査 ……(必要に応じて)										
(18) ビジネスプラン(事業計画書作成)										
(19) 報告会										

## 企業(業務委託者)と建設系 NPO をインターネットでむすぶ CNCP「マッチングサイト事業」起ちあげ報告

NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)において、このほど「マッチングサイト事業」が起ちあげられた。本事業は、CNCP 事業化推進理事として辻田代表が担当しているの、その概要をご紹介します。

マッチングサイトとはインターネット上で業務委託者と業務受託者のマッチングを支援する仕組みの総称である。

すでにこの仕組みを利用したビジネスモデルは、クラウドソーシング事業として我が国では IT 関連の仕事やデザイン関連の仕事を中心に、この 5 年程度の期間で急成長を遂げている。

クラウドソーシングとは不特定多数 (CROWD) と業務委託 (SOURCING) するという意味でネーミングされた。この不特定多数を対象とした在宅・テレワーカーというスタイルは、今後さらに普及するものと言われている。

本事業は、建設分野において仕事を依頼したい

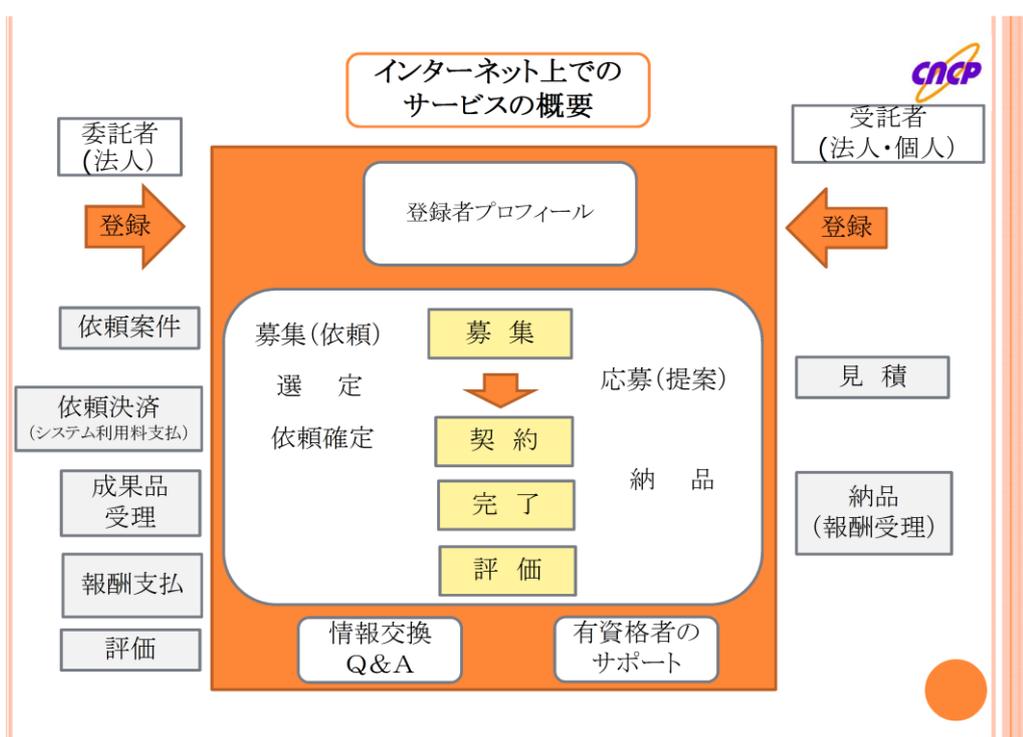
企業が建設系 NPO に発注できるようにする仕組みをマッチングサイトとして構築するものである。

本システムが稼働しサービスが開始されると、CNCP として下記の役割が期待される。

- ① 専門技術者の経験と技術を活かす場の提供
- ② 交流・自己アピールの場の提供
- ③ 地域課題解決のデータベースの蓄積の場
- ④ 賛助会員企業および法人正会員 (NPO) を相互により強く結びつける仕組み (相互扶助の場)

本システムは、CNCP 会員以外にもオープンにして利用していただける。現在システムを開発中であるが、オープンになった際には当 NPO としても大いに利用していきたい。

### CNCP「マッチングサイト事業」の仕組み





生涯にわたる、自分らしい働き方、生き方を構築する

## キャリアを考える

### 第21回 CSN サロン

日時：2016年1月11日 15時～17時

会場：オリンピック記念青少年総合センター  
105会議室

演題：キャリアを考える

講師：キャリアカウンセラー  
西島 葉子さん

参加者：13名

\* 17時より新年会（レストラン「とき」）

新年早々のサロンは、シビルサポーター（旧シニア・アドバイザー）の西島葉子さんに講演していただいた。

西島さんは、再就職支援会社で就職支援、セミナー講師、ワークショップのファシリテーターを担当され、またキャリアカウンセラーの養成にもあたられるなど、キャリアカウンセラーとして深い知験を有しておられる。

かつて、ゼネコンに勤務されたご経験から、大規模な土木工事を現場で支える施工会社の技術伝承に詳しく、いわゆる「ドボ女」としても知られている。

講演において講師は、キャリアとは「人生そのものの」であり、その価値を見出すのは自分自身である、と言われる。

キャリアの価値とは、職務経歴書に見られる外的キャリアと、自身の内面を満たす内的キャリア（自分らしさの発揮、自分が大切にしているもの、自分が価値を見出しているもの）にあり、それは自己の存在そのものである。

キャリアが問われる時代背景は、グローバルな観点から、また国内での産業構造により、変化している。自分においても、山あり谷ありのキャリアに

おける転機がある。人生は、変化への対応・選択の連続であるので、それを自分自身が人生の経営者として乗り越えることによって発達・成長する。

不確実な時代において、過去の経験を意味ある、価値のあるリソースとして、自らが変化して、自分らしいキャリアを生涯にわたって築くことが必要と、指摘された。

リタイアにより、わがキャリアは終わった、と考えがちである。しかし、自分の役割りは年代に応じて変化すると位置づければ、キャリアへの挑戦は生涯つづくということがよく理解できた。



## □ トピックス □



株式会社 奥村組

## 先駆的なテーマ設定と講師

## 奥村組 技術セミナーレポート

CSNが主管している共創プラットフォーム事業化研究会がご縁で昨年に引き続き今年も研究会メンバーの奥村組技術セミナーに高橋事務局長と行って参りました。今年で27回目の技術セミナーは毎年非常に先駆的なテーマ設定と講師の人選で回を重ねられており国際フォーラムの会場は総勢600~700人の参加者であふれるばかりでした。

今回のテーマは、巨大大風の来襲やゲリラ豪雨の多発など水災害への関心が高まっている中、「大規模水災害の備えとは」でした。

基調講演は日本水フォーラムの代表理事の竹村公太郎氏が「水害と日本人のアイデンティテ

ィ」なるテーマでお話されました。竹村氏の講演は何度かお聞きする機会がありましたがいつもながらの斬新な切り口と明快な論調でのお話でした。幾つか印象に残ったことを列挙します。

- ・治水は長い歴史の中にあり、とくに江戸時代からの250年間の「洪水」という敵と戦うことで日本人のアイデンティティが作られてきたといえる。
- ・水との戦いは宿命でありけして避けられないものである。
- ・堤防のほとんどが江戸時代につくられたもの。どこで決壊するかは判らない。堤防は信頼でき

ないが私たちは堤防に守られて生きている。

- ・自然災害は常に不条理であり、安全への不断の努力は必要である。

次に「大規模水災害への備えとは」をテーマに竹村氏をコーディネーターに、中央大学の山田正先生、水資源環境センターの森北佳昭理事長、リバーフロント研究所の土屋信行理事をパネラーにパネルディスカッションが行われました。一般にパネルディスカッションは事前にシナリオがあってそのシナリオに沿って進められますが、今回はシナリオなしの自由なディスカッションでした。

パネラーから出された主な意見は下記の通りです。

- ・何時でも200m×200mのエリアの詳細な降雨データがリアルタイムで携帯で見られる。
- ・日本は水害に対しては脆弱な国土である。
- ・雨の降り方が変化し新たなステージに入ってきている。

- ・都民は氾濫域に住んでいる意識がない。
- ・自然堤防で民有地があるがここを勝手に開発すべきではない。
- ・水害のリスクをゼロにすることは不可能である。
- ・ハードだけでは限界がありソフト対策が不可欠である。
- ・今後はかなり厳しい災害想定の下、踏み込んだ事前復興計画の取り組みが必要。

今回の技術セミナーは「雨の降り方が変わったとの認識のもと、最大クラスの洪水や高潮等に対して、命を守り都市機能を維持するためにどのような備えが必要なのか」をあらためて考えさせられるものでした。今回も昨年同様実に格調いセミナーの印象でした。CSNからは舌間氏、梅田氏、田中氏らも参加しておりました。

(報告:辻田 満)

## CSN のうごき

行事・イベント	実施日	参加者
事務局定例会議	11/2、12/4、 1/8	辻田、宇佐、高橋
シビルNPO連携プラットフォーム運営 会議	11/10、12/8、 1/12	辻田
共創プラットフォーム事業化研究会 (フェーズⅡ)	11/11、12/9、 1/13	辻田、宇佐、高橋
CSN 役員懇談会	1/11	辻田、宇佐、舌間、鈴木、 高橋、和久
第21回CSNサロン	1/18	13名
活動報告季刊誌第12号発行	1/31	

## CSN ことしの行事予定

第21回 CSNサロン	2016年1月11日
第13期総会	2016年4月11日
第22回 CSNサロン	2016年7月11日
第23回 CSNサロン	2016年10月11日
事務局定例会	毎月第1月曜日

## 編集後記

・ 1月11日のサロンでお話いただいた西島葉子さんは、若いころフランスで学ばれた。

昨年の秋、仕事に一区切りをつけ、2か月間にわたってヨーロッパ各地にいる旧学友を訪ねる旅をされたそうだ。

ブログでその楽しい記事を読むことができる。

・ 今月の拙稿「ボクの松戸の七不思議」は、長いばかりで内容はとるに足りず恐縮であるが、編集だけはかなり手間がかかってしまった。

写真が多くて重くなり、メールで送れないのである。それで、発行直前に写真全部を容量を圧縮したものに差し替える作業が生じた。

編集は、何回やっても慣れないものだ。

(事務局:高橋 肇)